

徒手整復の適応と限界 第11報

仙骨骨折に対する徒手整復術の重要性

南波利宗(清野鍼灸整骨院)

山田昌紀(清野鍼灸整骨院)

清野充典(清野鍼灸整骨院)

池内隆治(明治国際医療大学)

背景・目的

- 柔道整復術は徒手で骨折を治療する伝統医術であり、接骨院に来院する骨折患者も多い。
- 仙骨骨折の発生頻度は、全脊椎骨折中5%と稀で、仙骨骨折に対する徒手整復術の検討を行った報告は見あたらない。
- 今回、整形外科を受診し、仙骨骨折と診断された患者に対して、徒手整復術実施後良好な経過が得られた。
- 仙骨骨折に対する徒手整復術の重要性について検討したので報告する。

対 象

- 患 者：女性34歳
- 診断名：下部仙骨骨折
- 現病歴：

平成22年3月5日20時50分頃（初診の前日）、
空手道場内で足を滑らせ、尻もちを着いた際に負傷した。
受傷後2日目に整形外科にて仙骨骨折と診断され、その
後、当院を受診した。

- X線所見：
下部仙骨横骨折。下方に延長転位を認める。



X線所見：受傷2日目

方 法

■ 徒手整復法

患者を伏臥位とする。術者の両母指を末梢骨片に当て、長軸に直圧を加える。その際、助手に中枢側より骨盤を把持させる。

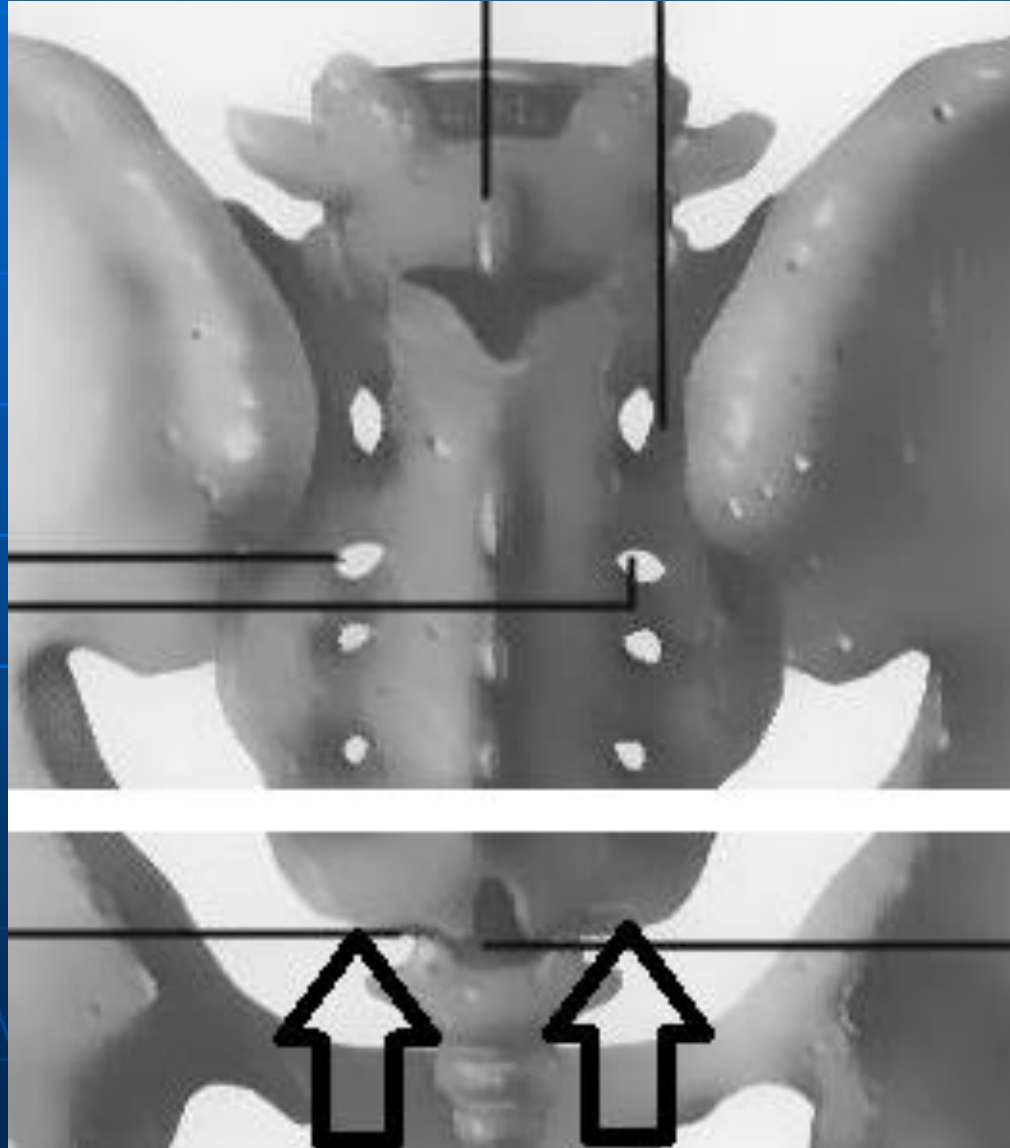
■ 固定法

骨折部直上に綿花枕子を当て、テーピングで固定する。テーピング後、厚紙及び晒を用いて固定を行う。治癒に至るまで同様の固定を行う。

整復操作



整復操作の説明



テーピング固定法



結 果 1

- 初診(受傷後2日目、以下受傷後日数):
徒手整復術実施後、自発痛消失した。
- 3日目:腰部前屈位にて痛みあり。
- 8日目:患部圧痛消失
- 9日目:患部疼痛消失、レントゲン撮影の結果、延長転位を認める。



X線所見：受傷10日目(整復後9日目)

結 果 2

- 10日目：くしゃみをした際痛みあり。
- 20日目：柔らかい椅子に座る際、痛みを認める。
- 29日目：疼痛消失、日常生活機能回復により治癒に至る。

考 察

- 骨折端が離開する事は、骨癒合に不適な条件である。
- 今回の症例は、徒手整復術により延長転位が完全に改善していないにもかかわらず、自発痛の消失がみられた。さらに治癒に至るまでの日数は、コールドウェルの機能回復期間に比べて短縮された。
- 骨折端を近接する事で、治癒を促す作用機序が発生するものと示唆される。

結 語

- 今回、延長転位がある仙骨骨折に対して、徒手整復術を行い、良好な結果が得られた。
- 延長転移が完全に整復されなくても、疼痛の緩和が見られた。
- 延長転移がある仙骨骨折に対して、骨折端を近付けるように徒手整復術を行うことが重要であると考えられる。